

職業実践専門課程の基本情報について

| | | | | | | | |
|--------------|---|---------------------------|---------------------------------|----------|------------------------|---|-------|
| 学校名 | | 設置認可年月日 | | 校長名 | | 所在地 | |
| 日本工学院八王子専門学校 | | 昭和62年3月27日 | | 千葉 茂 | | 〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111 | |
| 設置者名 | | 設立認可年月日 | | 代表者名 | | 所在地 | |
| 学校法人片柳学園 | | 平成25年3月1日 | | 片柳 鴻 | | 〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111 | |
| 目的 | 常に新鮮なる人材を要望される現代社会に対応し、専門の学理と技術を身に付け、職業人としての 自負と実力を蓄え、もって社会の中堅たり得る人材を養成する。電子工学コースでは、総務省による無線技術者養成の認定を受けており、実務に関する知識、技術及び技能を教授し、無線通信技術者及び電子回路設計・製作のできるエンジニアの養成を目的としている。 | | | | | | |
| 分野 | 課程名 | | 学科名 | | 専門士 | | 高度専門士 |
| 工業 | 工科技術専門課程 | | 電子・電気科 電子工学コース オーディオ家電コース | | 平成22年文部科学大臣告示 第153号 | | - |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2 年 | 昼間 | 1710 | 1350 | 0 | 840 | 0 | 0 |
| 生徒総定員 | | 生徒実員 | | 専任教員数 | | 兼任教員数 | |
| 240 人 | | 236 人の内数 | | 9 人の内数 | | 14 人の内数 | |
| 学期制度 | ■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日 | | | 成績評価 | | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定 | |
| 長期休み | ■学年始:4月1日～ ■夏 季:8月1日～8月31日 ■冬 季:12月23日～1月9日 ■学年末:3月21日～3月31日 | | | 卒業・進級条件 | | 進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること | |
| 生徒指導 | ■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 定期的な連絡および、補講を実施している。 | | | 課外活動 | | ■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動: 有 | |
| 就職等の状況 | ■主な就職先、業界等 NDK設備設計株式会社 一幸電子工業株式会社 NECネットワーク・センサ株式会社 株式会社ホンダテクノフォート ゼネラルエンジニアリング株式会社 新日本電子株式会社 東洋エンジニアリング株式会社 ■就職率※1: 96.9 % ■卒業者に占める就職者の割合※2: 81.6 % ■その他 大学編入 (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報) | | | 主な資格・検定等 | | 第1級陸上無線技術士 第2級陸上無線技術士 第1級陸上特殊無線技士 ビジネス能力検定 ガス溶接技能講習 アーク溶接特別教育 高所作業車運転特別教育 小型フォークリフト運転技能講習 酸素欠乏危険作業特別教育 | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 3 名 平成27年4月1日時点において 在学者 90 名 平成28年3月31日時点において 在学者 87 名 ■中途退学の主な理由 病気療養、進路変更 ■中退防止のための取組 定期的な個別面談、キャリア指導、カウンセリングなど | | | | | | |
| ホームページ | http://www.nec.ac.jp/ | | | | | | |

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

電子・電気分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。電子・電気分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。

授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学修評価を踏まえ、授業内容・方法等について検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

| 名 前 | 所 属 | 任 期 | 種 別 |
|-------|----------------------------|------------------------------|-----|
| 森 浩史 | 一般財団法人 家電製品協会 日立アプライアンス(株) | 平成28年3月1日～ 平成29年3月31日(1年) | ① |
| 天野 祐一 | 東洋エンジニアリング(株) | 平成28年3月1日～ 平成29年3月31日(1年) | ③ |
| 伊藤 晋之 | 一幸電子工業(株) | 平成28年3月1日～ 平成29年3月31日(1年) | ③ |
| 佐藤 壽彦 | パナソニックシステムネットワーク(株) | 平成28年3月1日～ 平成29年3月31日(1年) | ③ |
| 山野 大星 | 日本工学院八王子専門学校 副校長 | | |
| 丸島 浩史 | 日本工学院八王子専門学校 科長 | | |
| 古山 伸 | 日本工学院八王子専門学校 主任 | | |
| 柳川 和彦 | 日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 課長 | | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催

(開催日時)

第1回 平成28年3月10日 13:00～15:00

第2回 平成28年8月04日 10:00～12:00

第3回 平成29年3月 日 10:00～12:00(開催予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

通信システム1に今後普及が見込まれるIoTの発展に必要な近距離通信技術をカリキュラムに含めた。今後IoTが本格化するにつれ新たな科目として起こす必要があるか継続的に検討を行う。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

電子・電気分野に関する実践的な実習や演習を行なうため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、又は技術指導などを受けられる企業を選定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

ホームエレクトロニクス実験において、委員の現場経験をもとに、HDMIの通信距離にかかわる実験を検討。HDMIの通信距離と解像度、伝送距離の延長方法についての実験を加えた。

(3)具体的な連携の例

| 科 目 名 | 科 目 概 要 | 連 携 企 業 等 |
|---------------|-----------------------------|---------------------|
| 通信システム1 | 携帯電話などにも用いられる通信技術を学びます。 | 一幸電子工業(株) |
| エレクトロニクス通信実験 | スマートフォンなどで使われる通信技術の実際を学びます。 | 東洋エンジニアリング(株) |
| ホームエレクトロニクス実験 | ホームシアターや地デジなどの技術を実習します。 | パナソニックシステムネットワーク(株) |

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

平成28年7月29日～30日9時～17時 八王子キャンパスにて電子・電気科の教員を対象に開催。HEMS,スマートメータ、家電関連法規について(阿部先生)、ゼロエネルギー住宅、断熱方法、評価方法について(黒澤先生) スマートマスター資格に対する新技術について電氣的側面、住宅的側面から研修を行った。

②指導力の修得・向上のための研修等

平成28年8月2日 10時～18時 模擬授業やアクティブラーニング等の研修を実施し、指導力の向上を図った。実践編として火星移住をテーマにグループワークを通じ、アクティブラーニングについて学んだ。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

平成28年12月 コージェネレーションシステム、熱交換器など産業分野での省エネルギーの取り組みについてパナソニックの技術者を交え研修を行う。

②指導力の修得・向上のための研修等

平成28年3月(予定) 心理カウンセラー等を講師に招き、教育方法等の改善を図る。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|---------------|--|
| (1)教育理念・目標 | (1)理念・目的・育成人材像 |
| (2)学校運営 | (2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム |
| (3)教育活動 | (8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織 |
| (4)学修成果 | (13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価 |
| (5)学生支援 | (16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人 |
| (6)教育環境 | (22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理 |
| (7)学生の受入れ募集 | (25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金 |
| (8)財務 | (28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開 |
| (9)法令等の遵守 | (32)関連法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開 |
| (10)社会貢献・地域貢献 | (36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動 |
| (11)国際交流 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、優秀な作品は卒業制作展に出展するなど学生のモチベーションを維持させる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

| 名 前 | 所 属 | 任期 | 種別 |
|--------|--|-------------------------------|--------------|
| 森 健介 | 順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長) | 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年) | 学校関連 |
| 金子 英明 | 日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー) | 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年) | 卒業生/IT企業等委員 |
| 細谷 幸男 | 八王子商工会議所 事務局長 | 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年) | 地域関連 |
| 北尾 雄一郎 | ジェムドロップ株式会社 代表取締役 | 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年) | クリエイターズ企業等委員 |
| 今泉 裕人 | 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長 | 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年) | ミュージック企業等委員 |
| 古木 勝紀 | 株式会社バンパー 取締役 | 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年) | デザイン企業等委員 |
| 一瀬 康剛 | 株式会社アトム精密 代表取締役 | 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年) | テクノロジー企業等委員 |
| 長畑 芳仁 | NPO法人日本ストレッチング協会 理事長 | 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年) | スポーツ企業等委員 |
| 石川 仁嗣 | 医療法人社団 健心会 みなみ野ハートクリニック 事務長 | 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年) | 医療企業等委員 |
| 榊原 直哉 | 八王子市私立保育園協会 (藤井保育園副園長) | 平成28年7月1日～ 平成29年3月31日(9ヵ月) | 医療・保育団体等委員 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成28年9月12日

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|-------------------|--------------------------|
| (1)学校の概要、目標及び計画 | 学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画 |
| (2)各学科等の教育 | 目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿 |
| (3)教職員 | 教員・教員組織 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | 就職等進路、学外実習・インターンシップ等 |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | 施設・設備等 |
| (6)学生の生活支援 | 中途退学への対応、学生相談 |
| (7)学生納付金・修学支援 | 学生生活、学納金 |
| (8)学校の財務 | 財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書 |
| (9)学校評価 | 学校評価、平成27年度の項目別の自己評価表 |
| (10)国際連携の状況 | |
| (11)その他 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

授業科目等の概要

| (工) 技術専門課程 電子・電気科 電子工学コース・オーディオ家電コース 平成28年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|------|------|-----------|---|---------|--------------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | ビジネススキル | 仕事についての基礎知識などを養い、ビジネス能力を総合的に高めるためのトレーニングをします。 | 1・後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | キャリアデザイン1 | 就職に必要なマナーや一般常識などを学びます。 | 1・前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | ○ | スポーツ実習1 | 集中授業としてスキー、スノーボード教室等を実施します。 | 1・後 | 30 | 1 | | | ○ | | ○ | ○ | | |
| | | ○ | 英語1 | 英会話を中心に、テクノロジー分野の英語表現力の基礎を学びます。 | 1・前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | サイエンス | サイエンスの知識として、物体の運動や力などについて学びます。 | 1・前 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | テクノロジー基礎1 | テクノロジーの基礎知識や計算手法について学びます。 | 1・前 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | テクノロジー基礎2 | ものづくり解析などに必要な数学を学びます。 | 1・後 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | デジタル回路1 | 2進法や基礎論理回路、各種デジタル回路について学びます。 | 1・後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 電気回路1 | 直流回路などの電気回路について学びます。 | 1・前 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 電気回路2 | 交流回路の考え方、法則、計算方法などについて学びます。 | 1・後 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 電子回路1 | アンプなど電子機器の原理や動作について学びます。 | 1・後 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | ○ | ビデオ技術 | 画像や映像の記録、伝送の方法について学びます。 | 1・前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | ○ | オーディオ技術 | スピーカやマイクロホン、アンプなどオーディオ機器について学びます。 | 1・前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | ○ | 家電製品技術1 | テレビ、地上デジタル、HDD・BDレコーダなど家電製品技術を学びます。 | 1・後 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | ○ | 資格対策講座1 | 各種資格取得のためのバックアップ講座です。 | 1・前 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | | ○ | 資格対策講座2 | | 1・後 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 電子工作実習1 | オーディオアンプなど簡単な回路の組立を通じ、電子技術について体験的に学びます。 | 1・前 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | | ○ | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--------------|--|-----|----|---|---|--|---|---|---|---|---|---|
| ○ | | 電子工作実習2 | イコライザーアンプなど回路の組立を通じ、電子技術について体験的に学びます。 | 1・後 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | プログラミング実習 | C言語プログラミングを行います。 | 1・後 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | エレクトロニクス基礎実験 | デジタル回路、パルス回路、アンプなど電子回路の動作を学びます。 | 1・後 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | テクノロジー実習 | 部品や簡単な回路の動作を実験を通じ学びます。 | 1・前 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | パソコン実習 | WindowsやOffice、インターネット利用上のマナー、エンジニアとしてのPCの利用方法を学びます。 | 1・前 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| | ○ | インターンシップ1 | 企業研修で実際の現場を学び、実践力のスキルを高めめます。 | 1・通 | 30 | 1 | | | ○ | | ○ | | ○ | |
| ○ | | キャリアデザイン2 | 社会人として必要な知識や自己表現力などを学びます。 | 2・前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | スポーツ実習2 | スキー&スノーボード教室などを実施します。 | 2・後 | 30 | 1 | | | ○ | | ○ | ○ | | |
| | ○ | 英語2 | 英会話を中心に、テクノロジー分野の英語表現力の応用を学びます。 | 2・前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 電子回路2 | 発振回路や電源回路、オペアンプを使用した回路など、様々な電子機器の動作について学びます。 | 2・前 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | マイクロコンピュータ | マイクロコンピュータのしくみや動作を学びます。 | 2・前 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | 光エレクトロニクス | 光通信や半導体レーザなどについて学びます。 | 2・後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | 通信システム1 | 携帯電話などにも用いられる通信技術を学びます。 | 2・前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | 通信システム2 | 通信技術の応用、実際の通信機器について学びます。 | 2・前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | 計測技術 | 電子機器の計測方法、計測器の原理などについて学びます。 | 2・後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | 電子回路設計 | 増幅回路や発振器などの設計方法を学びます。 | 2・前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | 電子応用技術 | カーナビゲーションシステムなど電波応用技術など様々な電子技術の活用法を学びます。 | 2・後 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | オーディオ・ビデオ機器 | ホームシアターなど、デジタルAV技術を学びます。 | 2・前 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | 家電製品技術2 | 様々な家電製品の技術を学びます。 | 2・後 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | 資格対策講座3 | 各種資格取得のためのバックアップ講座です。 | 2・前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | 資格対策講座4 | | 2・後 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| | ○ | 資格対策特別講座 | 様々な資格対策を行います。 | 2・前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---------------|----------------------------------|-------------------|-----|---|--|--|---|---|---|---|---|---|
| ○ | | エレクトロニクス通信実験 | スマートフォンなどで使われる通信技術の実際を学びます。 | 2・後 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| | ○ | 電子回路製作実習 | 増幅回路や発振器などの設計・製作を行います。 | 2・前 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | ○ | デジタルテクノロジー実験 | デジタルフィルタなどDSPの基礎などのデジタル技術を実験します。 | 2・前 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | ○ | 家電機器修理実習 | テレビなど家電製品の故障発見・対応などについて実習します。 | 2・前 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | ○ | ホームエレクトロニクス実験 | ホームシアターや地デジなどの技術を実習します。 | 2・後 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| | ○ | 卒業製作 | ものづくりを通じ、2年間で習得した技術の集大成します。 | 2・後 | 120 | 4 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | ○ | インターンシップ2 | 企業研修で実際の現場を学び、実践力のスキルを高めます。 | 2・通 | 30 | 1 | | | ○ | | ○ | | ○ | |
| 合計 | | | 46 科目 | 2190 時間 (118 単位) | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|---|--|-----------|-----|
| 卒業時に必修科目1, 110時間(61単位)、選択科目600時間(29単位)以上を取得し、合計1, 710時間(90単位)以上を取得すること。 | | 1 学年の学期区分 | 2期 |
| | | 1 学期の授業期間 | 15週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。